

世界が進むチカラになる。



# グラフで見る東海経済 (2023年9月)

2023年9月26日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

# 今月の景気判断 ～持ち直している

## 【今月のポイント】

- 東海経済は、持ち直している。
- 7月の生産は、前月と同水準となったが、均してみると持ち直しの動きがみられる。
- 8月の自動車の輸出数量は、前年比+39.1%と大幅に増加。実質輸出(7月)は前月比+6.7%となり、2カ月連続で上昇した。
- 個人消費は、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。

項目	現状
景気全般	持ち直している(↑)
生産	持ち直しの動きがみられる
輸出	持ち直している(↑)
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きが鈍化
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	例年並みの水準となっている

注: ()内は前月からの変化の方向

景気全般と輸出は、「持ち直しの動きがみられる」から上方修正(↑)

# 生産

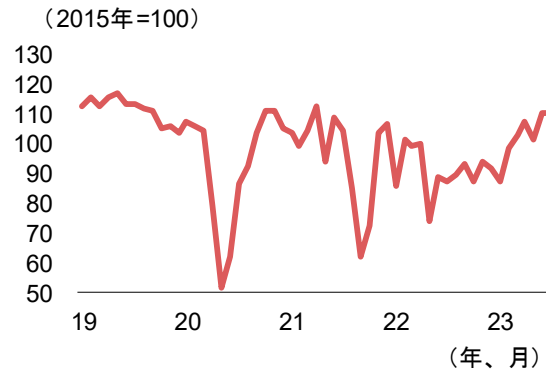
7月の鉱工業生産(東海)は前月比+0.0%と前月から変わらず、均してみると持ち直しの動きがみられる。輸送機械、汎用・生産用・業務用機械など主要業種は低下した。

## 鉱工業生産指数

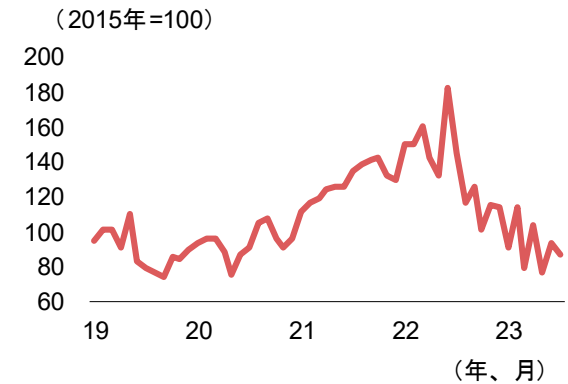


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

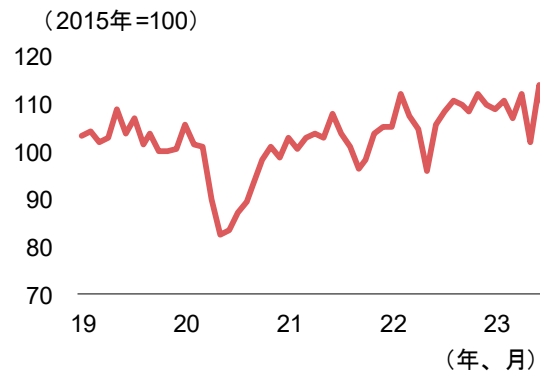
## 輸送機械



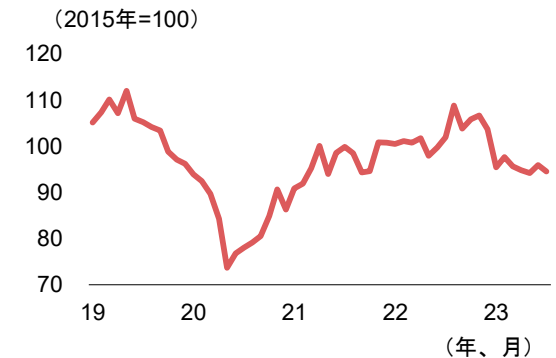
## 電子部品デバイス



## 電気機械



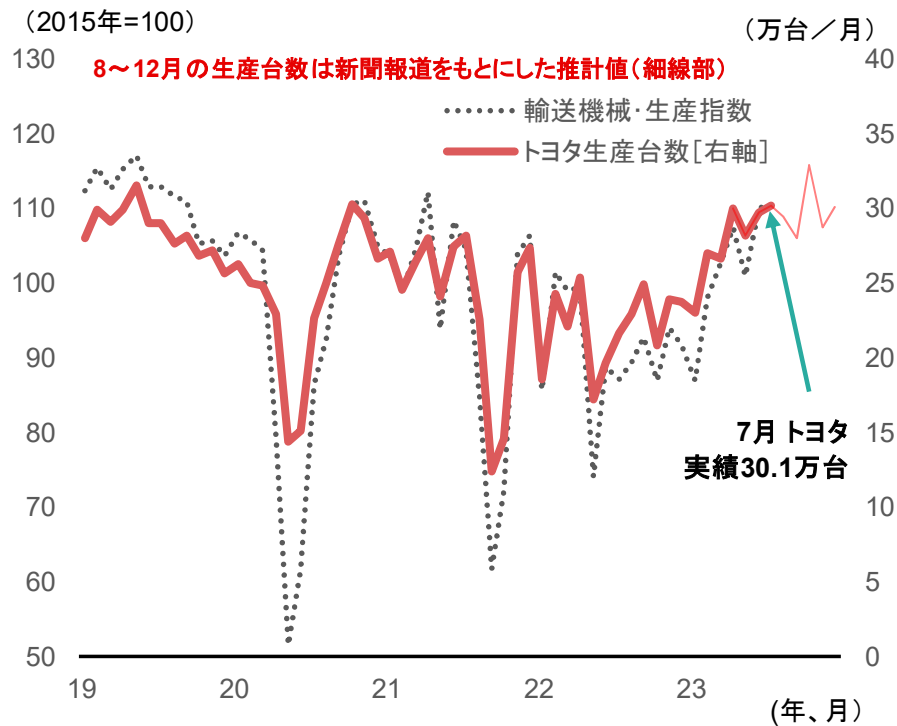
## 汎用・生産用・業務用機械



# 生産（トヨタ国内生産）

7月のトヨタ生産台数(弊社季節調整値)は30.1万台と前月から増加した。先行きは、車載半導体の安定調達には不確実性が残るものの、持ち直し基調が続くと見込まれている。

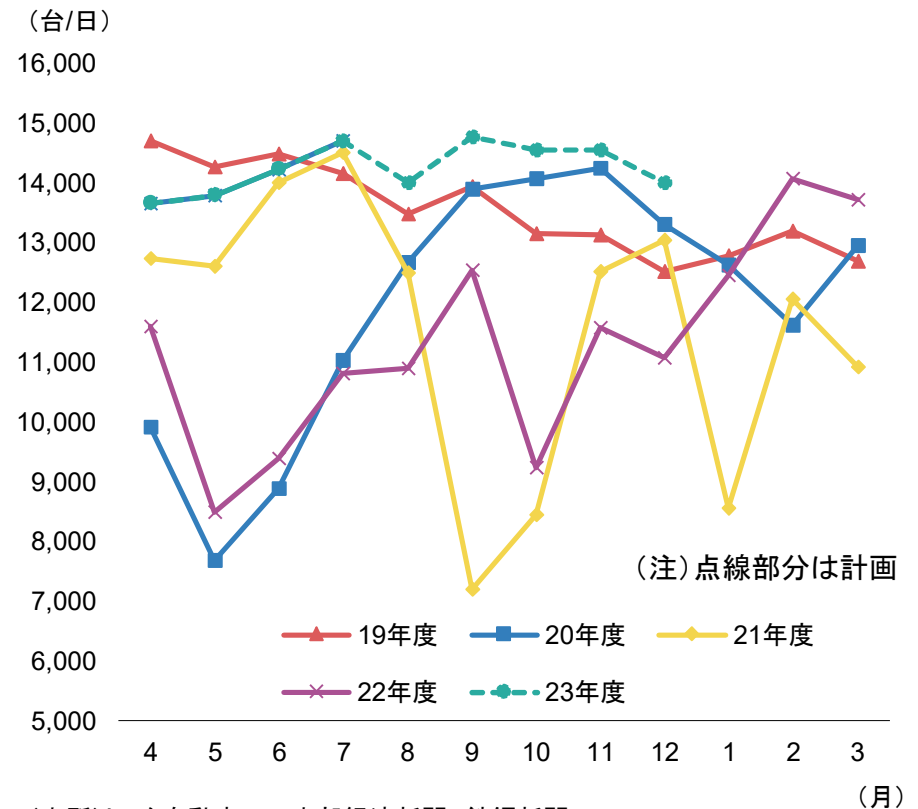
トヨタ月次生産台数(季節調整値)



(注)トヨタ生産台数の季節調整はMURC試算、輸送機械・生産指数は東海3県のもの

(出所) 中部経済新聞、鉄鋼新聞、中部経済産業局「鉱工業生産指数」

トヨタ日当たり生産台数(原数値)



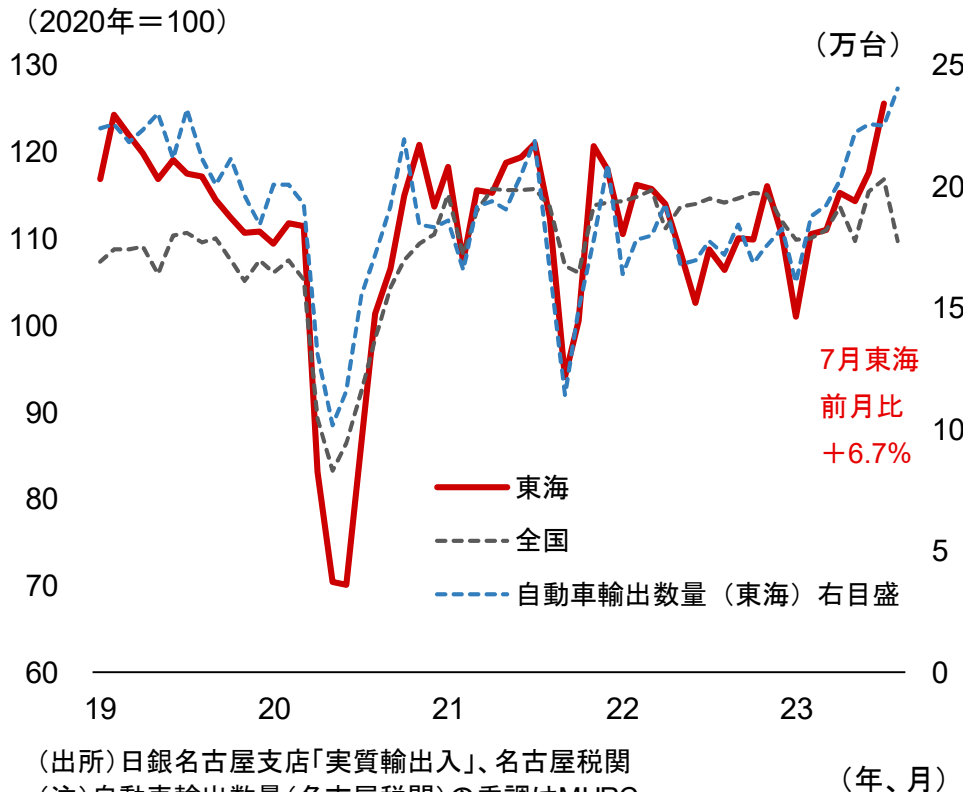
(出所)トヨタ自動車HP、中部経済新聞、鉄鋼新聞

# 輸出

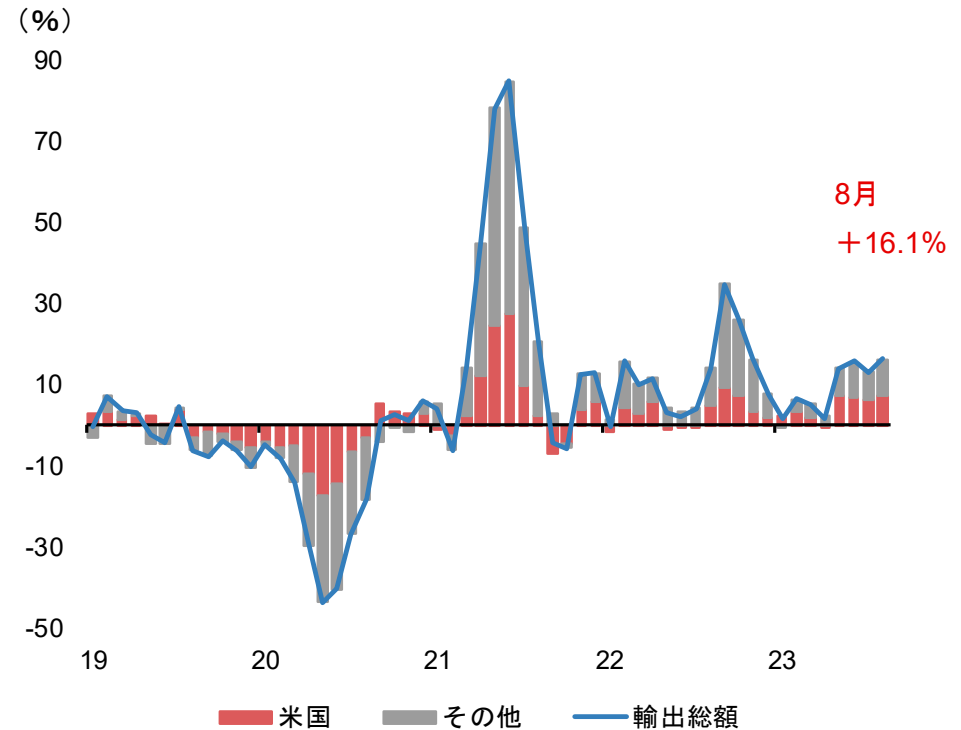
8月の名目輸出額は、前年比+16.1%と19ヵ月連続のプラスとなった。業種別では、自動車と同+74.0%（寄与度+17.6%pt）と大幅増となり、数量ベースでも同+39.1%と増加した。地域別ではアジア向けが減少となったが、米国、EU、その他向けが増加した。

7月の実質輸出指数（季節調整値）は、前月比+6.7%と2ヵ月連続で上昇。

実質輸出指数（季節調整値）



名目輸出（前年比、寄与度）



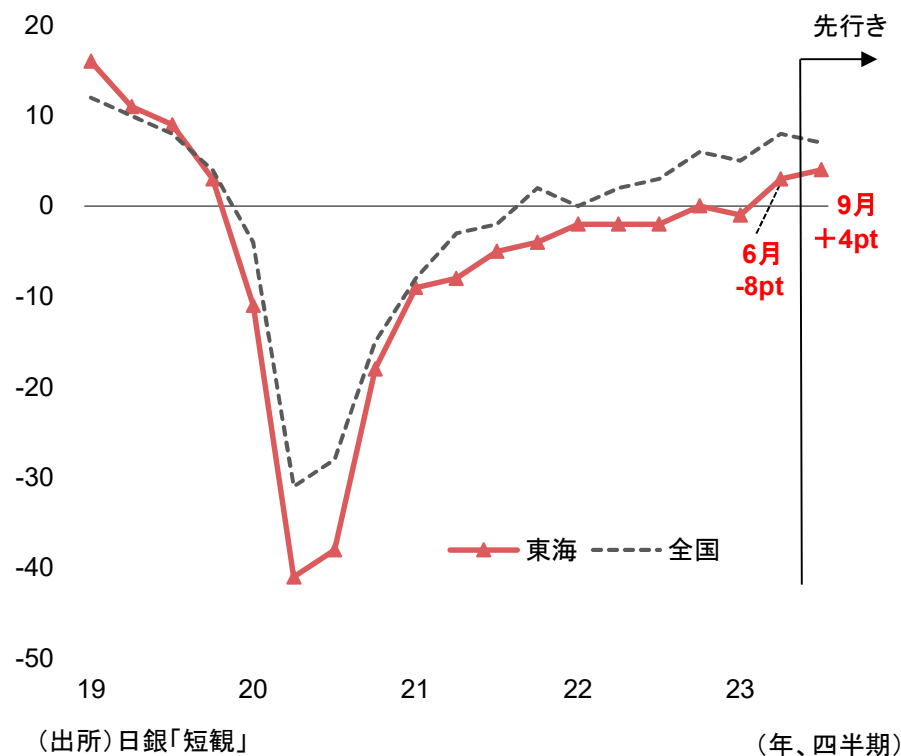
(出所) 日銀名古屋支店「実質輸出入」、名古屋税関  
(注) 自動車輸出数量(名古屋税関)の季調はMURC

(出所) 名古屋税関「管内貿易概況」

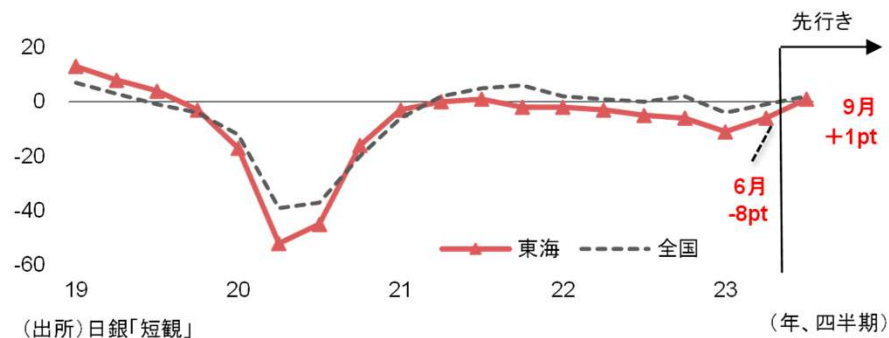
# 企業景況感(日銀短観) ※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査の業況判断DIは、全産業で+3ptと3月調査(-1pt)から改善した。製造業、非製造業ともに改善したが、製造業は「悪い」超、非製造業は「良い」超となった。製造業では自動車は改善する一方、はん用機械、電気機械が悪化した。非製造業では、宿泊・飲食サービスが改善した。先行きについては、製造業で改善、非製造業で悪化を見込んでいる。

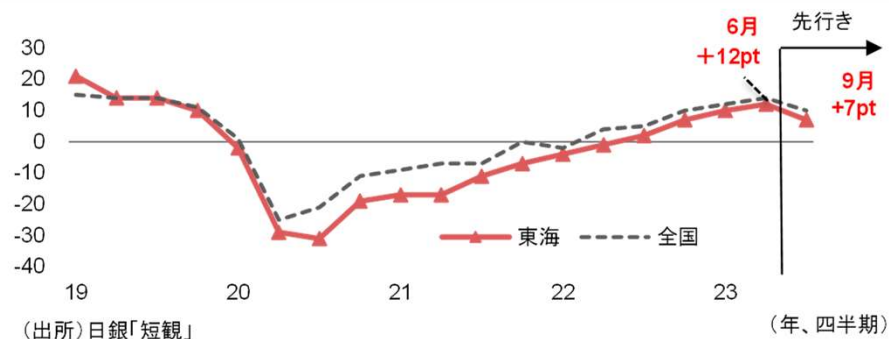
## 短観 業況判断DI「全産業」



## 同 製造業



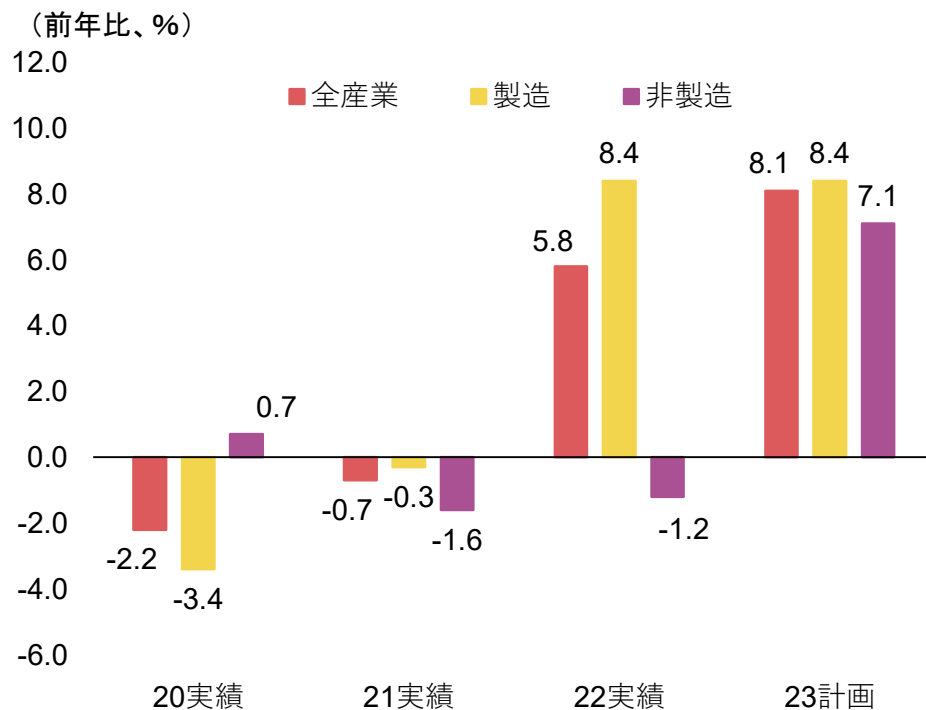
## 同 非製造業



# 設備投資（日銀短観） ※以下は7/3公表の6月調査。9月調査は10/2公表予定

日銀短観6月調査によると、23年度の設備投資計画は、製造業で前年比+8.4%、非製造業で同+7.1%と前回調査から上方修正となった。製造業でははん用機械、生産用機械、電気機械などが大幅増の計画、非製造業では卸・小売り、対個人サービス、宿泊・飲食サービスなどが大幅増を見込んでいる。

設備投資 実績・計画



設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画		
		今回調査	( 前回調査 との差異 )	前回調査
全産業	8.7	10.4	( 10.0 )	0.4
製造業	14.4	13.0	( 12.5 )	0.5
非製造業	5.1	8.7	( 8.3 )	0.4

(出所)日銀名古屋支店「短観」

(注)含むソフトウェア・研究開発、除く土地投資

(年度)

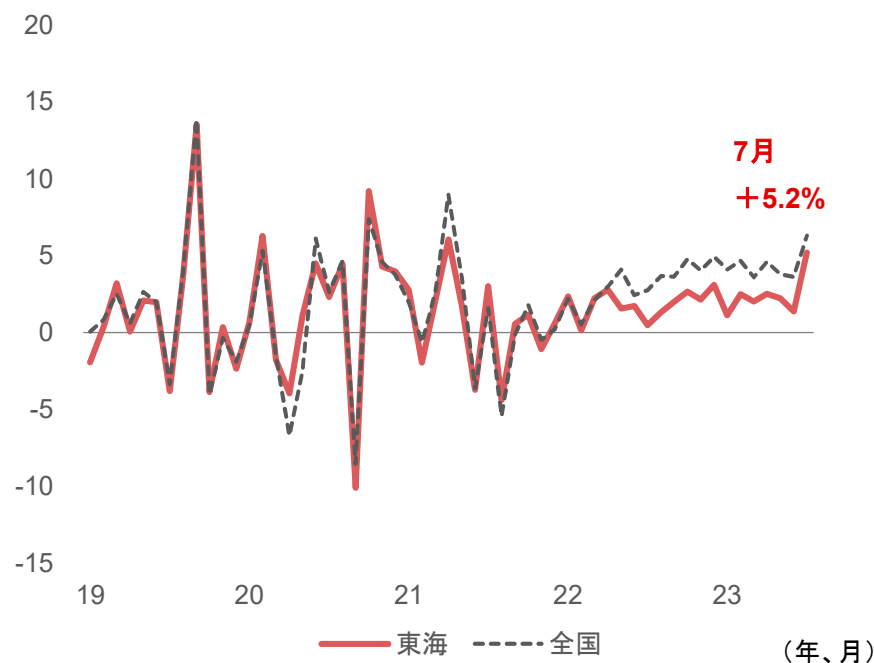
## 個人消費(小売売上、自動車販売)

7月の小売販売額は前年比+5.2%と20ヵ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

8月の新車販売は、前年比+28.3%と8ヵ月連続でプラスとなった。水準はコロナ前を下回る状態が続くものの、持ち直しの動きがみられる。

### 小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

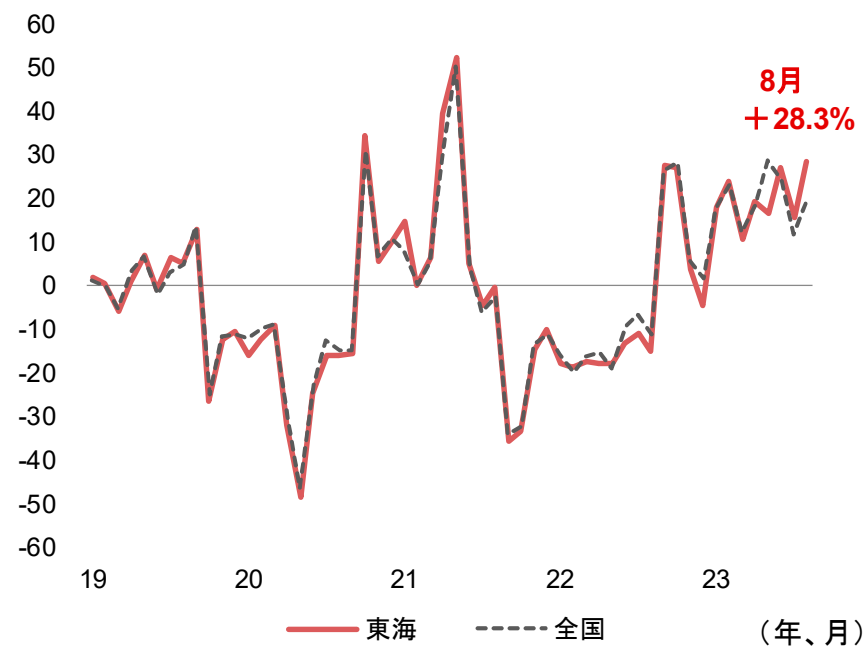


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

### 新車販売台数(含む軽)

(前年比%)



(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」  
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

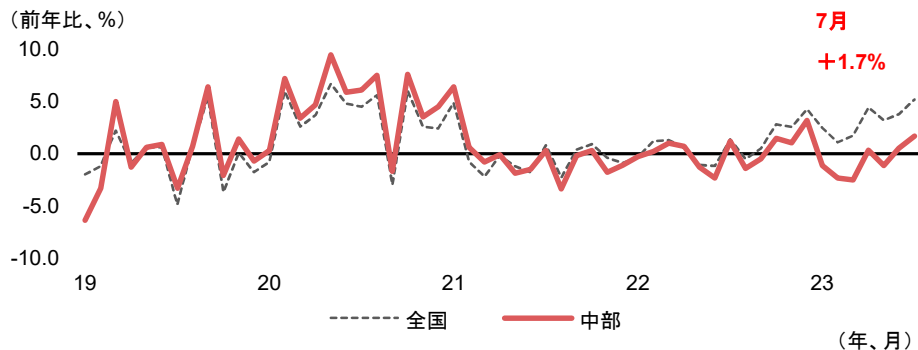


# 個人消費(業態別)

7月の業態別小売販売は、スーパー(中部5県)は前年比+1.7%と2カ月連続で増加した。

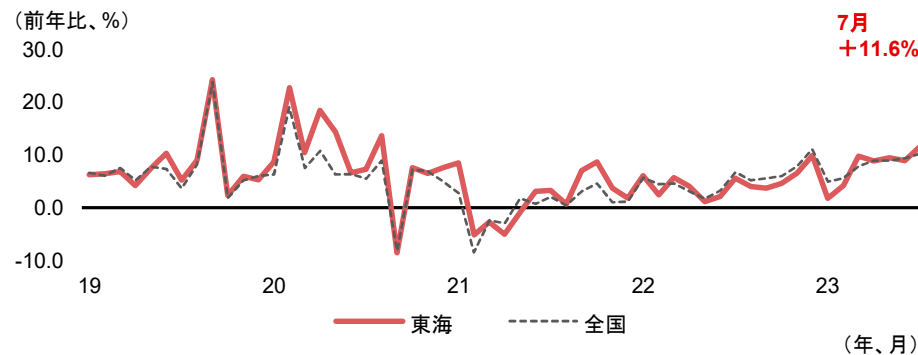
8月の百貨店売上(名古屋)は、外出機会やインバウンドの増加により前年比+13.2%と23カ月連続のプラスとなった。

## スーパー販売額



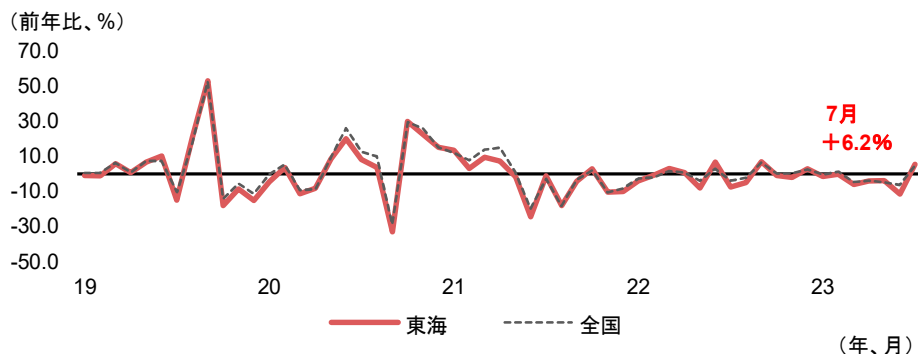
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

## ドラッグストア販売額



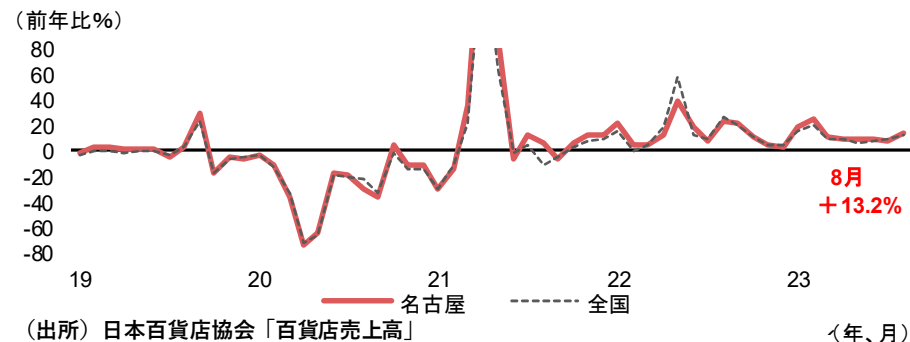
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

## 家電大型販売店販売額



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

## 百貨店売上高



(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

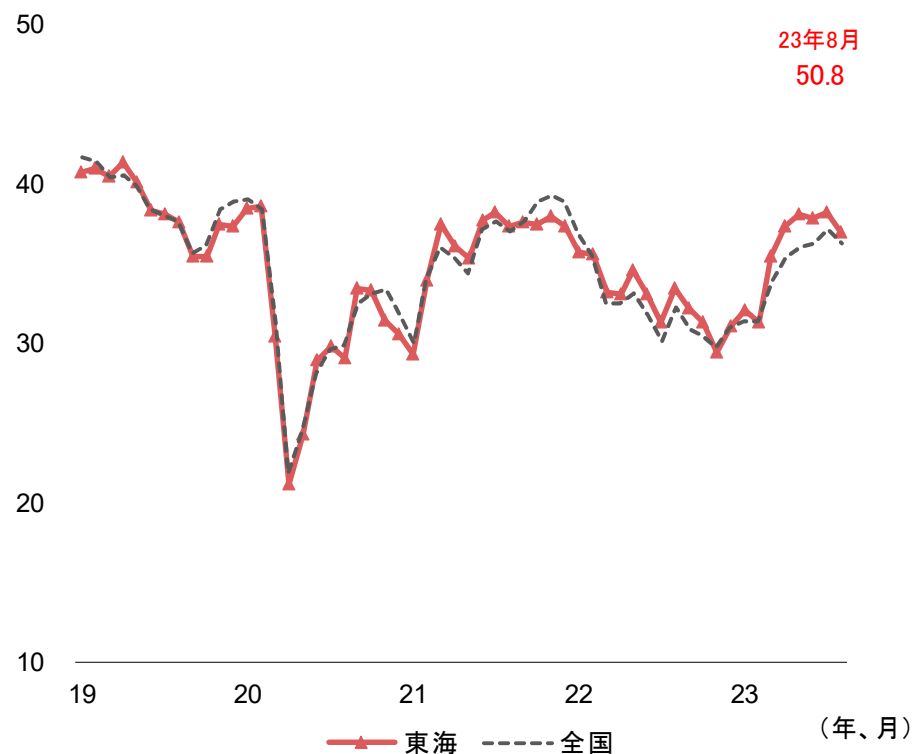
(注) 店舗調整後前年比

# マインド・景況感

8月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、前月差-2.0ポイントの 50.8と2ヵ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を5ヵ月連続で上回った。景況感は持ち直している。

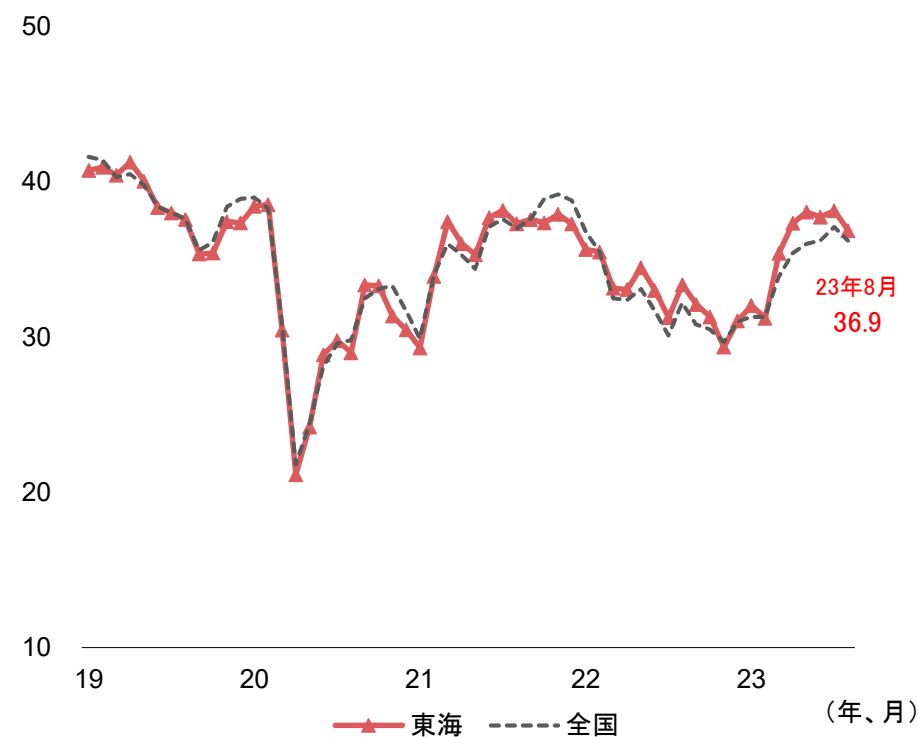
8月の消費者態度指数は2ヵ月ぶりに低下した。

### 景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

### 消費者態度指数



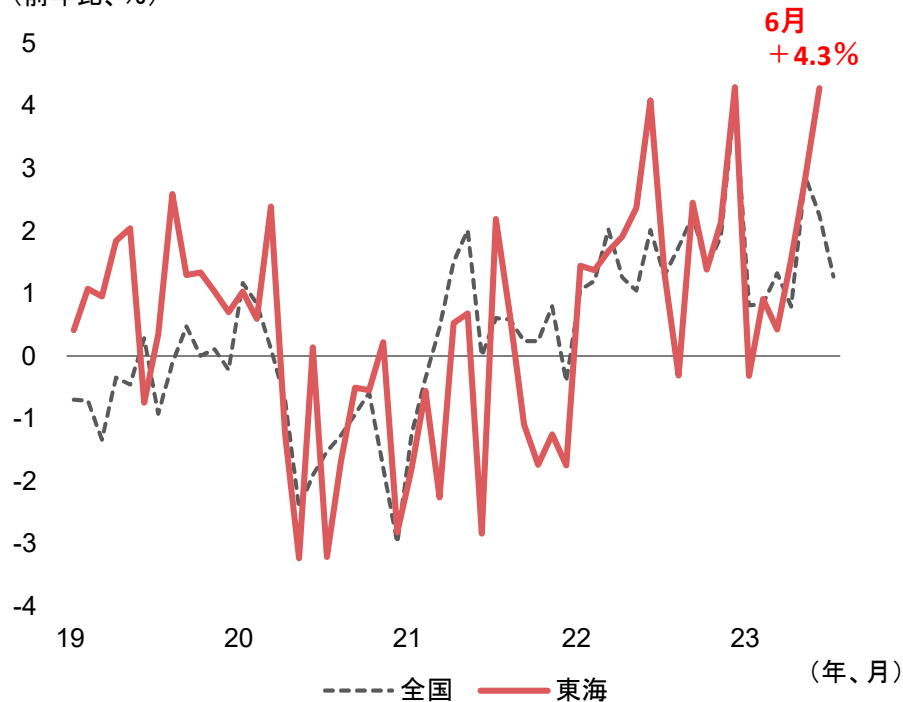
(注)東海の季節調整値はMURC試算  
(出所)内閣府「消費動向調査」

# 賃金・雇用

6月の名目賃金は、前年比+4.3%と5カ月連続のプラスとなった。岐阜、三重で特別給与が大幅に上昇した。7月の有効求人倍率は1.39と小幅上昇。全国に比べ求人倍率が高い状態が続いているが、このところ差が縮小傾向となっている。23年4-6月期の失業率は2.1%と低下。就業者数は減少した。

## 名目賃金指数

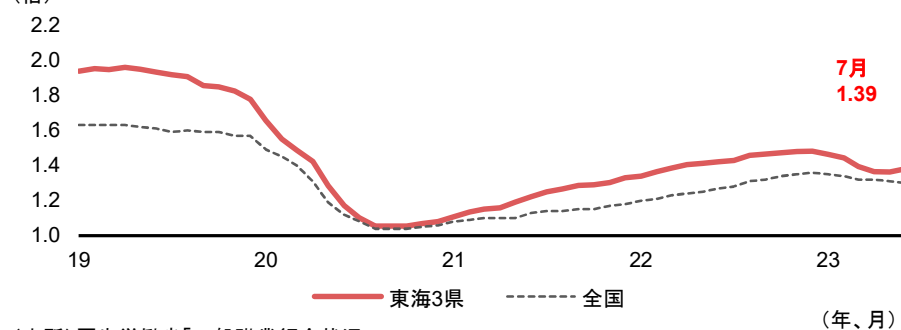
(前年比、%)



(出所) 名目賃金指数(所定内給与)、愛知、三重、岐阜の常用雇用者指数よりMURC作成

## 有効求人倍率(季節調整値)

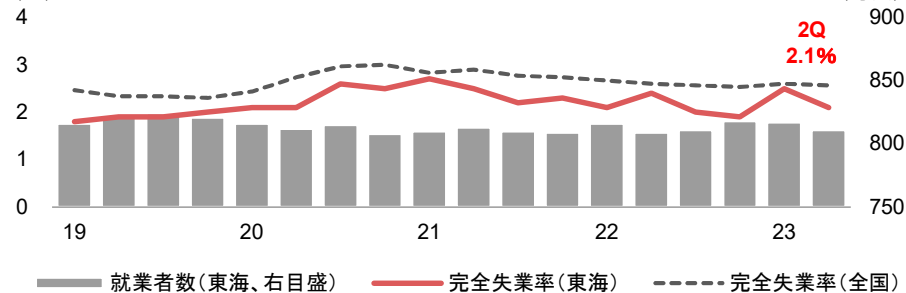
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

## 失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

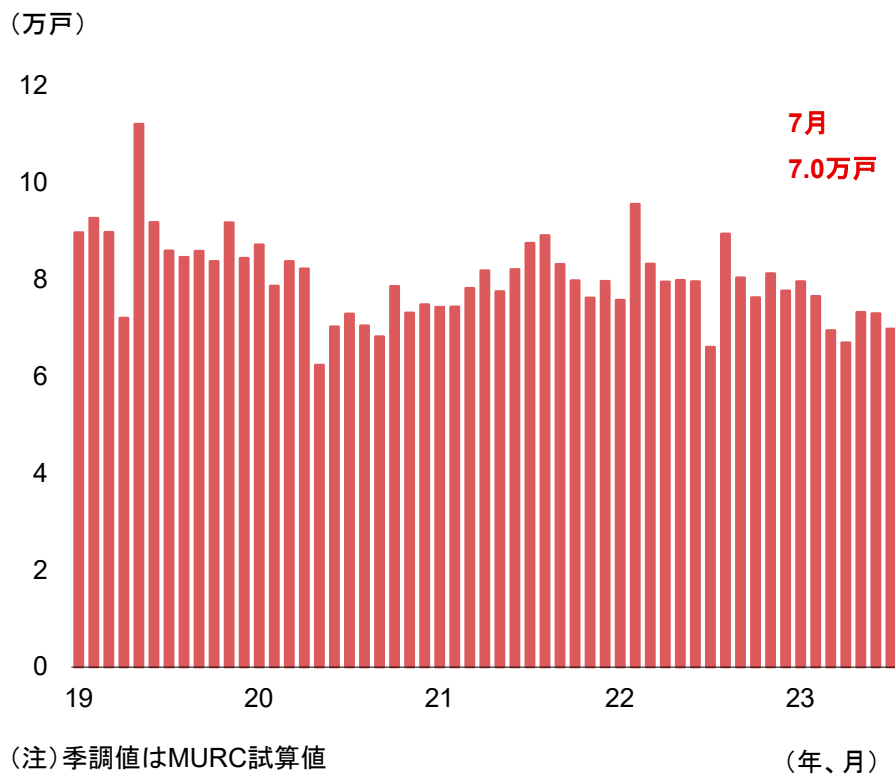


(出所) 総務省「労働力調査」

# 住宅投資

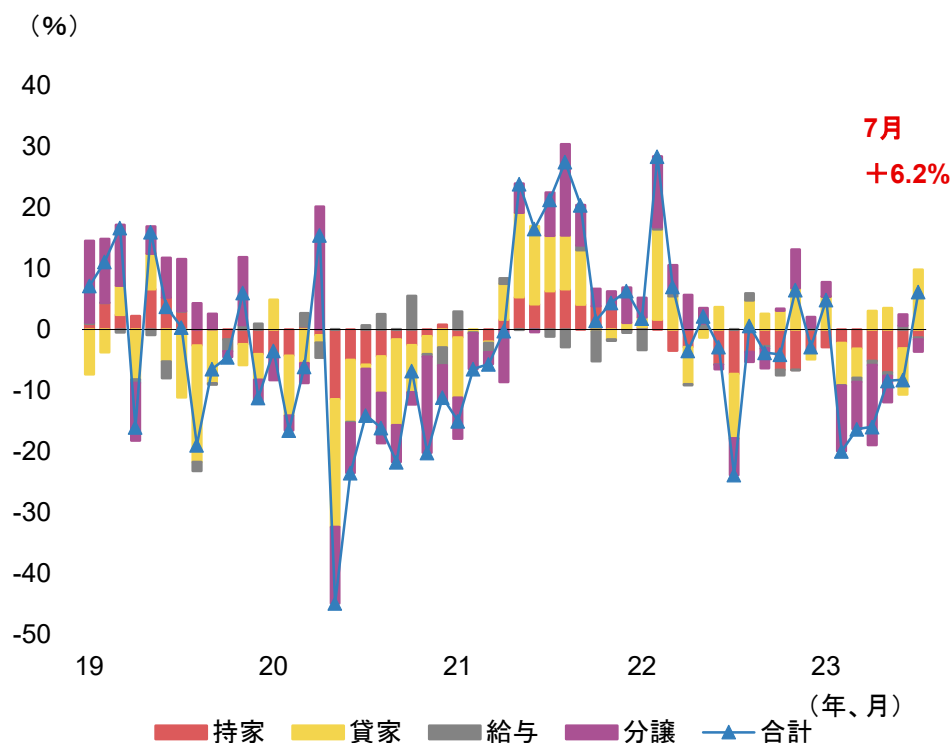
7月の住宅着工は季調・年率で7.0万戸と2ヵ月連続で減少。前年比では6ヵ月ぶりに前年を上回った(前年比+6.2%)。利用関係別では貸家は増加したが、持家、分譲が減少した。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値  
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

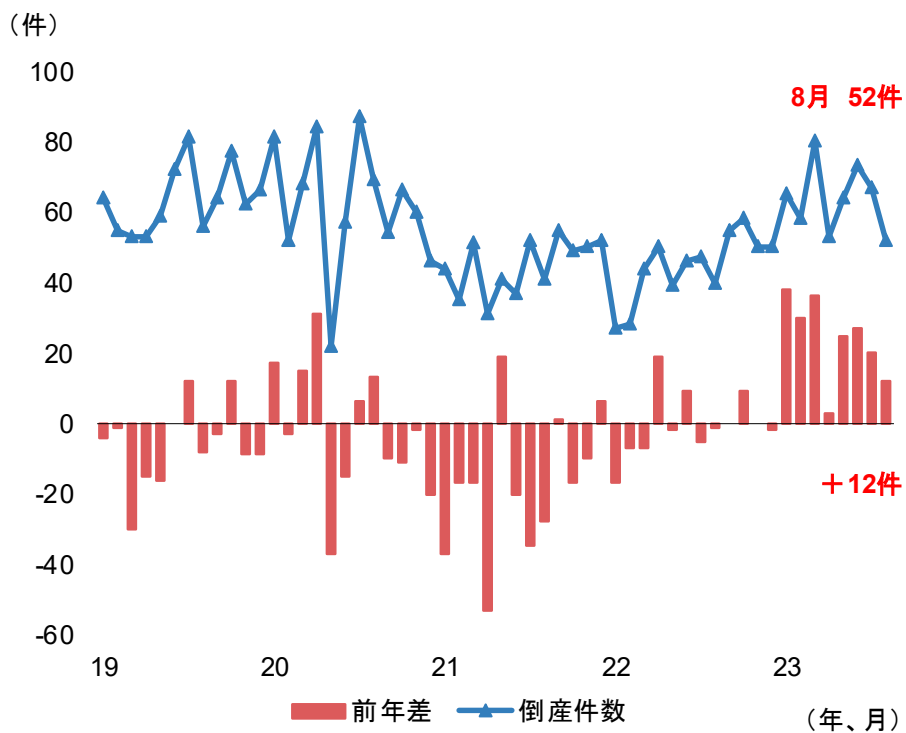


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

## 倒産

8月の倒産件数は前年差+12件の52件。コロナ前程度の水準となっている。

### 倒産件数

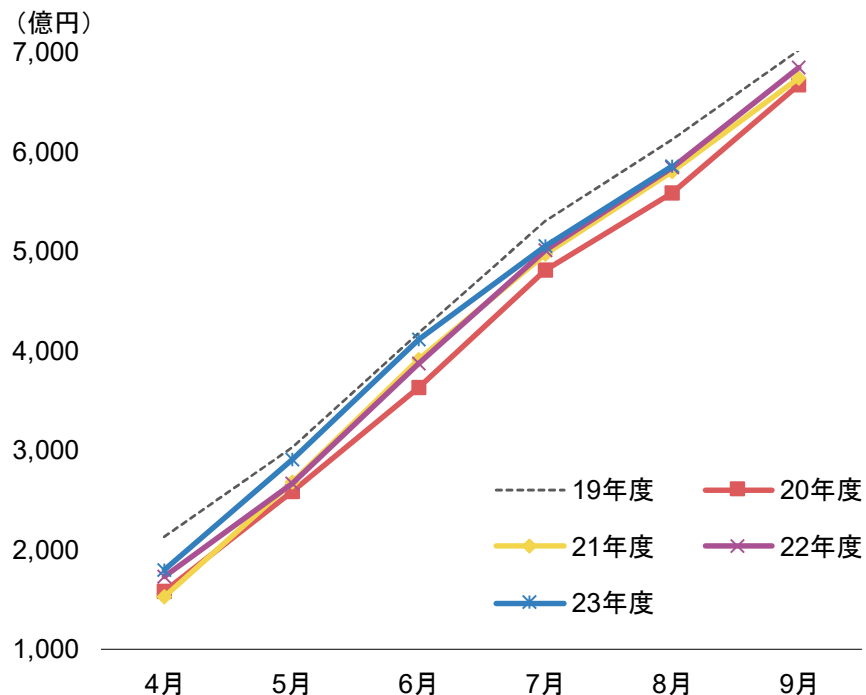


(出所)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

## 公共投資

8月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+0.2%の5,859億円と例年並みの水準となっている。

### 公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

## ご利用に際して

---

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー